



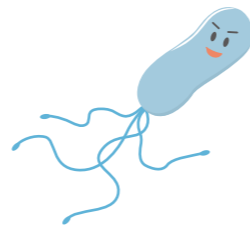
教えて!
Doctor
ドクター

テーマに関する素朴な疑問に
消化器内科の専門医がお答えします

Q&A

監修: 総合大雄会病院消化器内科統括部長
兼 内視鏡センター長
松山 恭士 医師

胃がん 編



Q 胃がんの主な原因となるピロリ菌の検査や
除菌療法について教えてください

A ヘリコバクター・ピロリ(ピロリ菌)の感染は、幼児期までが多いとされています。
ピロリ菌の診断には、胃カメラを用いない尿素呼気試験^{※1}や血液中や糞便中にピロリ菌
の有無を測定する方法(抗体測定、便中抗原検査)があります。なお胃カメラの所見でも
感染しているかどうかある程度わかります。

当院ではご希望があれば胃カメラの時に組織を採取して1時間程度で結果が分かる検査
も行っております。治療は、2種類の抗生剤と1種類の胃酸を抑える薬を1週間内服する除菌
療法を行い、除菌後の再感染は年間0.2%程度とされています。

※1尿素呼気試験…検査薬を服用して吐いた息を検査する方法

大雄会第一病院
健診センター
からのお知らせ

がんが気になる方に

一度の撮影で全身を検査できる **がん検診**
PET-CT検査



ご希望に応じてお一人おひとりに合わせた
最適なプランをご提案いたします。

お問い合わせ TEL 0586-26-2008 (健診センター)

施設紹介



総合大雄会病院

総合大雄会病院
〒491-8551 一宮市桜一丁目9番9号
☎0586-72-1211 (代)

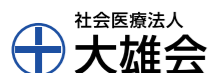
大雄会第一病院
〒491-8551 一宮市羽衣一丁目6番12号
☎0586-72-1211 (代)
健診センター ☎0586-26-2008 (直通)

大雄会クリニック
〒491-8551 一宮市大江一丁目3番2号
☎0586-72-1211 (代)

老人保健施設アウン
訪問看護ステーション・アウン
〒491-0101 一宮市浅井町尾関字同者165
老人保健施設アウン ☎0586-78-1111
訪問看護ステーション・アウン ☎0586-51-0031

新生訪問看護ステーション・アウン
〒491-8551 一宮市桜一丁目15番19号
☎0586-28-5633 FAX 0586-28-5634

大雄会ルーセントクリニック
〒451-6003 名古屋市西区牛島町6番1号
名古屋ルーセントタワー3F ルーセント・ウェルネスセンター内
健診センター(フリーコール) ☎0800-500-1211
外来 ☎052-569-6031



企画・発行: 社会医療法人大雄会 経営企画課
☎0586-24-2565 ✉pr1@daiyukai.or.jp

だいゆうかい

検索



社会医療法人大雄会
地域健康情報誌 [テ・ア・テ]

Te・A・Te

特集

胃がん

とは?



撮影地: 一宮市真清田神社

胃がんとは？



日本人は以前から胃がんが多く、男女合わせて年間で約45,000人※の方が胃がんで亡くなられています。がんによる死亡数では男性で2位、女性で3位です。胃がんの主な原因はヘリコバクターピロリ菌と考えられ、塩分の取り過ぎ、たばこ、野菜や果物の摂取不足なども原因として考えられています。今号は胃がんについてみなさんに理解を深めていただきたいと思います。

※平成28年人口動態月報年計参考



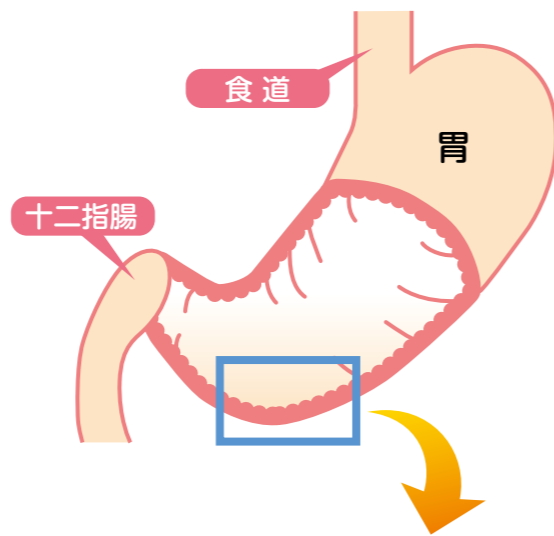
総合大雄会病院
消化器内科統括部長
兼 内視鏡センター長
松山 恭士 医師

胃がんの症状

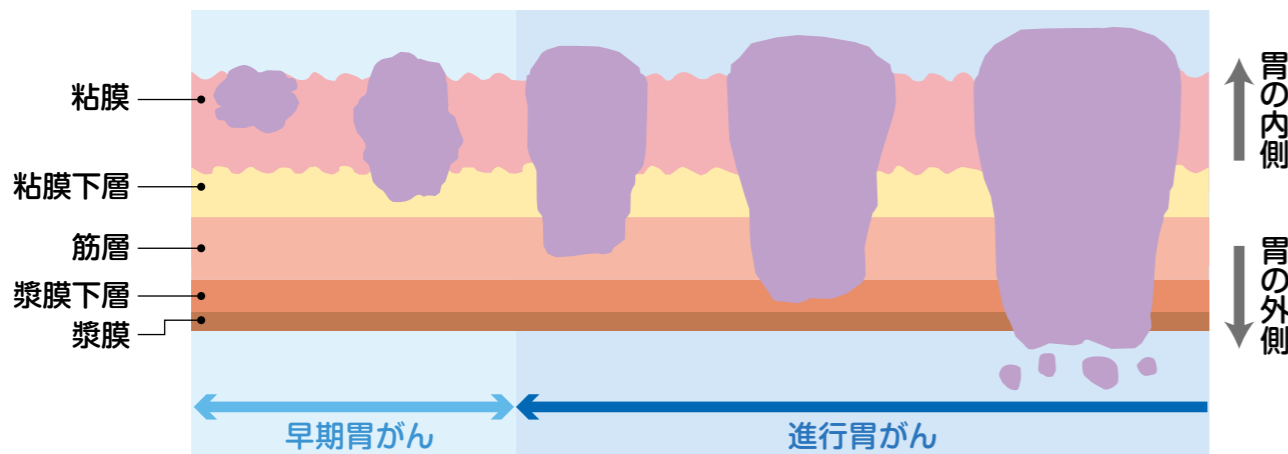
早期がんの場合自覚症状はほとんどありませんが、進行すると心窩部痛※や貧血、食欲不振や体重減少などの症状がでてきます。

※心窩部痛(しんかぶつう)…みぞおちの痛み

胃の壁は食べ物が接触する表面から順に、粘膜、粘膜下層、筋層、漿膜下層、漿膜の5層構造でできています。一番内側にある粘膜からがん細胞は発生し胃がんになります。がんが粘膜・粘膜下層までの場合は早期がん、それより深い場合は進行がんとなります。

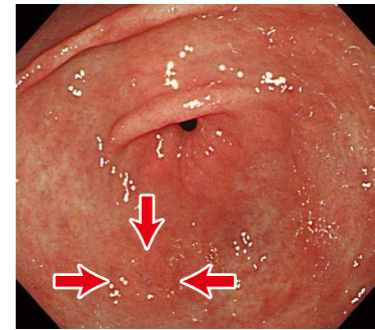


胃壁の構造

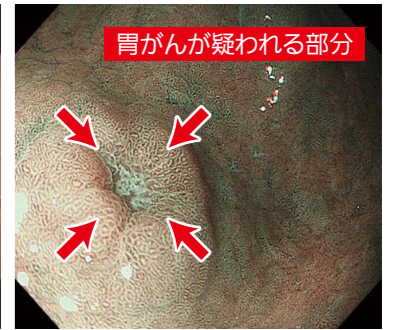


胃がんの診断

早期がんの場合は症状がほとんどないため、胃カメラによる内視鏡検査で病気によるわずかな変化を見つけ、組織検査(生検)によって診断をつけます。近年内視鏡機器の発展は目覚ましく、当科ではNBI(狭帯域光観察)といった特殊光を用いた新しい画像強調観察技術や約80倍まで拡大できる最新の内視鏡を用いて、早期発見や適切な治療方針を決めています。



通常光観察



NBI観察

通常光の観察よりも病気によるわずかな変化もわかりやすくなります

胃がんの治療

胃がんの治療には内視鏡あるいは手術による切除治療と抗がん剤による治療があります。当科では日本で開発されたESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)による内視鏡切除を積極的に行っております。内視鏡で病変を観察しながら専用の電気メスでがんの部分のみを切除する治療法です。1週間程度の入院は必要ですが外科手術に比べて入院期間は短く、胃の表面のみを切除しますので、お腹は開けず胃は全て残ります。ただしESDは早期胃がんの中でもリンパ節転移の可能性が極めて低い症状が対象となりますので、切除後の検査結果では追加で外科治療が必要になることもあります。

ESDによる内視鏡切除(深達度粘膜内の分化型早期胃がん:治療時間10分)



ESD前

マーキング

切除する範囲をマーキングします

切開剥離

マーキングの外側を電気メスで切開し粘膜下層を剥離します

ESD後

切除後標本

最後に

胃がんは早期発見が一番重要です。症状がなくても年に1回は内視鏡検査を受けましょう。当科では鎮静剤を積極的に使用して胃カメラを行っております。以前胃カメラがつかった方などは担当医とご相談の上、胃カメラを受けてみてはいかがでしょうか。また胃がんの原因であるピロリ菌についても当科外来でご相談ください。